

能登川の生んだ人々

Famous people from Notogawa

わが郷土は、縄文の昔から名もなき人々が営々として作り上げてきたもので、
有名人が作ったものではありません。

わが町からも、国のため、社会のため、郷土のために尽くした有名無名の多くの人々がでています。

宗祇法師 そうぎ・ほうし [1421~1502]

——能登川・伊庭氏の出身と判明

室町時代の連歌師に、宗祇という人がいます。

俳句で有名な松尾芭蕉は「西行の和歌における、宗祇の連歌における、雪舟の絵における、利休が茶における、其貫道する物は一なり」と『笈の小文』に述べているように、宗祇を自分の先を歩いた歌の大先輩として大変に尊敬しています。

連歌は和歌から俳諧へ移る過渡期に生まれた文学で、室町時代に盛んとなりましたが、江戸時代に入ると、残念なことにさびれてしまいました。そして、俳諧・雑俳(川柳・冠句など)にとって代われ、宗祇も一般の人々から忘れ去られてしまいました。

宗祇の出生地については、近江説・紀伊説の二つがあり、江戸時代からはなぜか紀伊説が有力となっていました。しかし最近、広島大学名誉教授・文学博士の金子金治郎先生が、「宗祇八江東ノ地ニ生まレ」と書かれている『種玉宗祇庵主肖像賛』や手紙などをもとにして、その生まれを近江守護・佐々木六角氏の重臣伊庭氏であると考究され、学会でも認められることとなりました。

郷土の生んだ偉大な文学者・宗祇法師について、いっ

そうの認識を深めるとともに、顕彰の運動を進めていきたいものです。



宗 祇



伊庭城址



箱根湯本・早雲寺

宗祇法師の近江における句

近江国にて
かげすずし 南のみ山 北の海
しげりあふ 未や千枝の 村がしは
近江にくだりしとき湖辺にて
月ぞ舟 夕わたりせよ 郭公
近江国慈恩寺にて 五月雨の比 墜栗のころを
五月雨は 花のおちぐり かぜもなし



大方源用禪師 たいほうげんよう・ぜんじ [1314~90]

— 伊庭氏の菩提寺・大徳寺を開創

大方源用は近江守護佐々木六角氏の分流・伊庭氏の生まれであり、出家して京都の臨済宗東福寺の雙峰宗源という方について修学し、禪僧となりました。

永徳3年(1383)には京都五山のひとつ、東福寺の五十世の寺主となり、明徳元年(1390)に亡くなりました。墓は東福寺塔頭・大仙院(廃寺)と能登川の大徳寺の2カ所にあります。

大徳寺は応安2年(1369)、大方源用が56歳のときに、故郷に創建したもので、妙心寺(廃寺となり地名のみ残る)とともに伊庭氏の菩提寺でしたが、永祿年中(1558~69)兵火により焼失したとされています。のち密雲が復興して、妙心寺派に転じました。

また、この大徳寺は「東嶺禪師授業寺」としても知られています。東嶺は近代臨済禅の巨匠・白隠禅師の高弟として、また父母孝養の禅僧として知られています。なお、東嶺出身の中村家はもと能登川町伊庭の出です。



◀ 大方源用



▼ 大方源用の墓



東嶺禪師授業寺

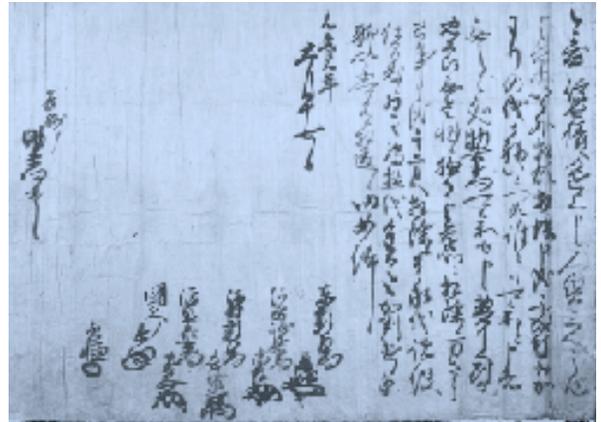
川原崎助右衛門 かわらさき・すけうえもん [? ~1570]

— 一身を投じて、村を救う

都へ上り天下統一をしようとした織田信長は、まず上洛の前に立ちふさがる佐々木六角氏の観音寺城を攻め落とし、これに味方する近郷の村々から人質を求めました。垣見・小川・新村などの各城は籠城して、信長に反抗ののろしを上げましたが、伊庭は人質を送って、反抗する気持ちのないことを誓うとともに、平和と用水の確保を求めました。

元龜元年(1570)11月、助右衛門ほか2名の人質は郷里伊庭を出発し、岐阜金華山城に捕らわれの身となりました。しかし、捕らわれている牢の中から平和と用水の確保を求め、訴え続け、ついに割腹しましたので、信長もその郷土を思う心に打たれて、その願いを聞き届けたということです。この助右衛門の行いにより、伊庭庄は戦乱の災禍をまぬがれ、伊庭川は400年の間、水量豊かに流れてきて、人々の飲料水となり、田用水となって、大地をうるおし続けてきました。

河川・湖沼を汚さず、豊かな環境を子孫に残そうと声高く叫ばれる今日、水のために命を投げ捨てた故人の功績を後世に伝えるため、昭和46年(1971)11月、子孫が集まって顕彰碑が建立されました。



古文書



顕彰碑と追弔法要